

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,20 2016年 秋号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い⑳ 「KINGクマタカ」

「突撃！鳥海イヌワシみらい館③～祝！鳥海山・飛鳥ジオパーク認定」

『ヤマドリ（2016年10月）』酒田市にて

バードウォッチングへの誘い②「KING クマタカ」

クマタカはイヌワシと並ぶ大型の希少猛禽類です。森林に生息しその姿を人に見せることは少ないですが、美しいタカ斑と冠羽が特徴で、大きさに相応しい力強くダイナミックな飛翔から、熟練のバードウォッチャーのみならず、初めてバードウォッチングをする人たちをも魅了してしまいます。この季節、紅葉をバックに舞う「森林の王者」クマタカをぜひ観察してほしいと思います。「どうせ山奥に行かないと見れないんでしょ？」と思う方もいるかもしれませんが、意外とあなたの住んでいる近くの低～い山でも見られるかもしれませんよ？

♂140 ~ ♀165cm



♂70

?

♀83cm

学名: *Nisaetus nipalensis*

英名: Mountain Hawk-Eagle

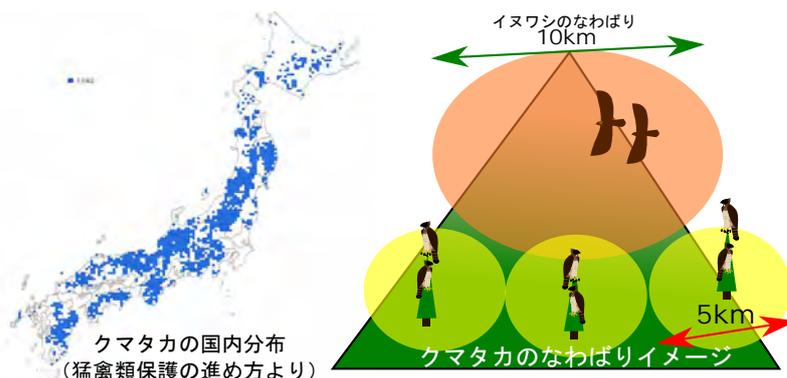
絶滅危惧 I B類 (環境省2012)

国内希少野生動物種 (種の保存法)

体重♂1.6~♀3kg

翼の幅が広いことで、木が混みあっている森林内でも飛行が可能です。

日本の国土面積の7割は森林！



日本では沖縄と千葉県を除いてほぼ全国に分布しており、その縄張りは約20~40km²と、体格の割にそれほど広い縄張りではないようです。国土面積の大部分を森林が占める日本は、森林棲のクマタカにとって棲みやすい国なのかもしれません。

色の違うクマタカがいる？



クマタカの雌雄はほぼ同色ですが、体の大きい方がメス、小さい方がオスという猛禽類の持つ性的二型があります。成鳥と幼鳥では、体の模様や色の違いのほか、目の光彩の色の違いでも区別することができます。

クマタカの繁殖は2年に1度の場合が多く、しかも卵は1個だけしか産卵しません。巣立ちが遅いクマタカは生まれた翌年も親鳥の縄張りに滞在します。



クマタカ、人との関わり



日本では主にオオタカなど比較的小型のタカを鷹狩りに使用してきましたが、東北地方の一部ではクマタカを鷹狩りに使うことが伝承されていました。

「鷹匠・沓沢朝治とクマタカ」
真室川町歴史民俗資料館提供

なんと人間がクマタカに襲われたというお話もあります。そんなクマタカもイヌワシに食べられたという報告もあります。



※観察には細心の注意を払って観察し、近づきすぎたり鳥が嫌がるような行為は絶対にしないでください。



クマタカの生息適地の要件は、急斜面がある森林であることに加え、営巣するための太い木が必要です。

ノウサギなどの哺乳類や鳥類、ヘビなどのほかニホンザルを食べることも！



庄内の動物情報コーナー

東北地方を直撃し各地に大きな爪痕を残した台風10号。日本有数のイヌワシの生息地である岩手県岩泉町も、被害のすさまじさが連日メディアで報道されていました。近年は熱中症対策のために、秋に運動会をしないで春に行う自治体もあるのだそうです。皆さんのお住まいで見れたもの、見れなくなってしまったものなどありましたらご一報ください。投稿はmoukin@raptor-c.comまで！



2016/7/16「モズ」酒田市
モズ。漢字で書くと「百舌鳥」。かなよりも漢字が多い。枝の先端で獲物を探す様子はまるで小さな猛禽です。※猛禽類ではありません
撮影：阿部一彦様



2016/7/16「ハチクマ」酒田市
今年の夏、猛禽類保護センターに寄せられた質問で多かったのが、ハチクマとイヌワシの見間違い。飛行形が似ているので注意が必要です。来館者提供



2016/7/18「ノスリ幼鳥」酒田市
巣立ち直後の若鳥。強い猛禽類も結構收容されることが多いです。
撮影：宮崎様



2016/7/28「トビ」酒田市
酒田市役所近くで見つかったトビもケガをしている様子。
撮影：酒田市環境衛生課



2016/7/31「ハチクマ」酒田市
イヌワシの生息地にもよく出現したハチクマたち。観察者の目を惑わしたようです。
撮影：武田様



2016/8/6「ヤマドリ」の羽」鶴岡市
複雑な模様の羽。こんな羽をもつ鳥っているの？と羽だけを見ると思ってしまう。その場所にこの鳥がいた証拠として、標本収集してみても良いかもしれませんね。撮影：中村様



2016/9/1「ビンズイ」庄内町
♪ピンピンツツイ♪安直すぎる！名前は覚えやすいが、ヒバリやタヒバりに似て見分けが困難です。ここで一句。ヒバリかな？鳴くまで待とうピンズイ 撮影：長南様



2016/9/19「ニホンジカ(♂2頭)」酒田市
移入種シリーズ。何...オスが2頭...だと...。これまでにないと言われてきたシカがいよいよ本格的に庄内でも見れるようになったということか！主要産業である農業への影響が心配です。撮影：渡会様



2016/9/20「モンキアゲハ」鶴岡市
移入種シリーズ第2段。これまで庄内にいないはずのアゲハチョウもついに定着し始めたのか？ほぼ毎年目撃情報があり、環境が変わってきているということでしょうか。撮影：宮川道雄様



2016/10/17「フクロウ」酒田市
秋の夜長に。闇夜に舞う最強のハンター。視線を外してもう一度見ると音もなく姿が消えておりました。
撮影：本間憲一



2016/6月 番外編「コチドリ」秋田県にかほ市
黄色いアイリングが目元を際立たせます！かわいいい！足長いい！これは流行りそう！
撮影：後藤勇様



2016/10/7 番外編「バン幼鳥」秋田県にかほ市
黄昏時に一羽、水草をついばむ水鳥。
撮影：後藤勇様

突撃！鳥海イヌワシみらい館③



祝！鳥海山・飛島ジオパーク認定！



平成28年9月9日(金)、「鳥海山・飛島ジオパーク」が日本ジオパークネットワークに加盟認定されました。ジオパークとは、自然遺産である地層や岩石・地形・火山・断層などを含む自然豊かな公園のことで、生態系や人々の暮らしとの関わりまでもつなげて考える場所です。日本では43か所が認定されています。鳥海山・飛島ジオパーク専任研究員の岸本誠司さんにお話を伺ってきました。

～ジオパークは人と人のつながり～

本間)ジオパーク認定おめでとうございます。現在のお気持ちをお聞かせください。

岸本)ありがとうございます。まずはほっとしています。

本)どのようなポイントが評価されたとお考えですか？

岸)ジオ・ヘリテージ(地学的遺産:地質、地形、自然、人の暮らし等総合的な遺産的価値)はもちろん、それを守って活用していく組織づくりが評価されたのだと思います。ジオパークにはサステナブル・ディベロップメント(持続可能な発展)という考え方が底辺にあって、持続的な体制で、活動、運営が可能かどうか重要なポイントになります。鳥海山・飛島ジオパークのエリアは4つの基礎自治体(山形県酒田市、遊佐町、秋田県にかほ市、由利本荘市)です。県境をまたいでいるジオパークは日本でも少ないですが、基礎自治体が運営を支えているということもあり、それぞれの自治体の連携、チームワークも重要です。チームワークの良さがあったからこそ、鳥海山・飛島ジオパークは比較的短い活動期間にもかかわらず加盟認定を受けたのだと思います。

養成講座です。講座を開始した当初は40名程度の参加と予想していたのですが、予想を大きく上回る58名の応募がありました。このような場を作って、地域の人たちに正しくジオパーク活動を知っていただくことに時間をかけました。

本)山形県では初のジオパーク認定ということになりましたが、認定される自信はありましたか？

岸)素晴らしい地域ですので、素材としての資質は問題ありませんでした。市民への浸透度や認知度が審査基準のウェイトを占めるということを考えると、もう一年時間をかけて周知活動をする方がいいのではと思っていた時期もありました。しかし、先にジオパーク認定されているいくつかの地域から様々な助言をいただき、認定に向けた課題をクリアしていく意欲が高まりました。これは、成功も失敗も共有して互いを高めあうジオパークネットワークのすごいところだと思います。



水田に浮かぶ九十九島の一つ
ミサゴ島(秋田県にかほ市象潟)

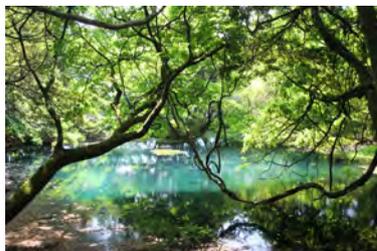
「法体の滝」
(秋田県由利本荘市)

本)ジオパークへ加盟認定されたということはどういった意味を持つのですか？

岸)ジオパークは「登録」ではなく「認定」です。ジオパークの理念に賛同しますという意味がネットワークの一員として認められたということです。活動を進めるなか、ジオパークへの考え方が変わったり、活動自体がおろそかになっていたりすると、認定が取り消されることもあります。そうしたこともあり4年に1度再審査があるのです。

本)認定まで苦労されたことは？

岸)あっという間でした。鳥海山も飛島も地域の象徴であり皆に愛されている場所です。行政も市民もNPOも研究者も、いろいろな人がジオパークを通してお互いを理解しあう場を提供することが重要だと考えて、人のつながりを作ることに重点を置いて活動してきました。その活動のメインがジオパークガイド



丸池
(山形県遊佐町)



玉簾の滝
(山形県酒田市)

本)民俗学がご専門ということですが、ジオパークをどのように見えていますか。

岸)ジオパークは地質学者が多い中で、人文系はマイナーな分野です。その中で民俗学がジオパークに貢献できることはないかということを常に考えています。「自然の文化化」などと言いますが、誰のものでもなかった自然が、いつの間にか誰かのものになりそれを利用する慣行ができていたり、地球レベルからすると何でもない岩が、地域の人にとっては特別な対象になっていたりする。こうした人と自然の交渉の歴史を明らかにすることは民俗学がジオパークに貢献できることだと思います。

本)岸本さんは兵庫県のご出身ですが、鳥海山・飛島の魅力は何でしょう？

岸)海あり、島あり、里あり、山あり。鳥海山を中心にわずか半径40kmほどの圏内に日本の自然が凝縮されている場所だと思います。

本)鳥海山・飛島のジオサイトで面白いと思うところはどこでしょうか？

岸) 飛島にある酒田市の天然記念物「二俣島」は全体が玄武岩の柱状節理の島で、全国的にも非常に貴重なものです。この島では柱状節理の断面に立つことができます。そしてそこから40km離れた酒田市にある「玉簾の滝」にはこの兄弟の柱状節理の岩があります。日本が大陸から離れた時期、1500万年ほど前に大量に噴出した溶岩の一部ですが、海と山の両方で触れることができるという意味で面白いと思います。

長船) 岸本さんが一番好きなジオサイトはどこですか？

岸) 飛島の御積島(おしゃくじま)です。御積島と烏帽子群島は鳥海国定公園の特別保護地区になっています。御積島は流紋岩という火山岩でできた島で、その北側には大きな海蝕洞窟があって、龍神が棲むと信じられています。御積島はウミネコをはじめとした多くの海鳥が繁殖する場所ですが、そこで大量に排出される糞の成分が岩の内部に浸透して、長い時間をかけてうろこ状の模様になります。それを島の漁師が龍に見立て崇めているのです。ジオパークはよく「ジオ・エコ・人」のピラミッドで表現されますが、まさしくそれを代表するようなジオサイトです。



漁師の聖地「御積島」と内部の「龍の鱗」模様

本) イヌワシをどうしてジオサイト(ジオパークの見どころ)に選んだのでしょうか？動物がジオサイトというのは無関係に思えるのですが。

岸) 鶴間池ができた成因にもなった鳥海山の地滑り地形は、イヌワシの生息環境も作っています。イヌワシは健全な鳥海山の生態系を表すシンボルですので、ジオパークではイヌワシの存在も大切に考えています。地域で大事にされているもの、守っていかねばならないものがジオサイトにふさわしいと考えます。保護・保全を理念の基礎に置くジオパーク活動では、地域でイヌワシを護っている人たちとのつながりを作るといことも大切だと考えています。

長) 地域住民にとって認定のメリットはありますか？

岸) 保護・保全に取り組む人たちにとっては、ジオパーク活動によって仲間が増えることにもなります。教育分野では、地域の事を正しく知る地域づくりや、観光にとっても様々な展開が期待されます。

本) 観光客が増えれば、環境負荷が増えることにもなりますが心配される点などはありますか？

岸) ジオパーク認定されることによって観光客が激増することは今のところほかのジオパークでもありません。ジオパーク認定前から獅子ヶ鼻湿原、中島台や丸池などのジオサイトでは、観光客の立ち入りによる周辺の裸地化が進んでいる場所もあります。環境を保全することは誰にとってもメリットがあることから、今後もそうした問題が出るようであれば保全と観光の調和を図っていくことが重要でしょう。これはジオパークに期待できる分野です。

本) 今後、ジオパークをどうしていきたいですか？

岸) ユネスコ世界ジオパークも視野に入ってくるかもしれませんが、やはりジオパークを通して、地域の新しいつながりを作っていくことを継続していきたいと思います。先日、大学の講義でも話したのですが私たちホモ・サピエンス(現生人類)は他の霊長類に比べて力が強いわけでもないですが、繁栄することができた要因は「協力し合うこと」があったからです。「協力」「わちあひ」はジオパークネットワークの持つ機能です。人口減少

社会に突入した日本では「開拓の時代」から「撤退の時代」に突入したと言えます。日本人の歴史は99%開拓の歴史で、この歴史の中でいろいろな仕組みが作られてきましたが、これからはそれらが通用しない時代を迎えます。日本では今後人口増加は起こりそうにありませんが、人と人がつながることで生まれる「人交密度」を増やすことは可能です。その仕組みを作ることはジオパークが持っている最大の役割と言っていいのではないのでしょうか。



鳥海山が山体崩壊した証拠「埋もれ木」秋田県にかほ市

本) 最後にこれから鳥海山・飛島ジオパークを訪れる方々に一言お願いします。

岸) ぜひ、ジオガイドの皆さんに解説を受けながらジオサイトを歩いてほしいですね。きっと鳥海山・飛島ジオパークを何倍も楽しんでもらうことができると思います。

岸本 研究員のお話を聞いて、ジオパークの視点が加わることで、新しい鳥海山・飛島の発見がきっとあると思いました。イヌワシの見方も、個体だけでなく生息環境から丸ごと観察して、イヌワシの住める環境セットが大地の恩恵によってできていることも感じてほしいと思います。

記事の中に登場したジオサイト



カシミール3Dにて作成



岸本 誠司 (きしもと せいじ)
1971年生まれ、兵庫県出身。専門は民俗学。近畿大学にて民俗学者野本寛一に師事し、以降全国の農山漁村のフィールドワークを重ねる。2005年に東北芸術工科大学東北文化研究センターに赴任。2015年より鳥海山・飛島ジオパークネットワーク構想推進協議会専任研究員。



鳥海山
・飛島ジオパーク構想
推進協議会事務局

TEL 0184-62-9788

イベント開催報告

○「夏休み体験プログラム」開催しました！

7月25日(月)～8月21日(日)まで、約1か月にわたって、週替わりで工作体験イベントを開催しました。1週目「エコバッグを作ろう」、2週目「木片スライスでクラフト」、3週目「お鷹ぼっぼの絵付け」、4週目「蜜ろうそくを作ろう」というラインナップでした。これらのプログラムは間伐材を使った工作や、葉っぱの多様性、猛禽類の体の特徴を学んだりとは実は猛禽類や自然保護に関連するもので、制作を通して保護や知ることの重要性を体験とともに理解してもらうことができたと思います。今年から8月11日が、国民の祝日「山の日」となり、県外からも多くの家族が来館し、体験していただきました。また来年も楽しいプログラムを用意して皆さんのお越しをお待ちしております。



エコバッグを作ろう！



お鷹ぼっぼの絵付け



蜜ろうそくづくり



木片スライスでクラフト

○猛禽類観察会「2日間のイヌワシ観察会」開催しました！

8月27日(土)・28日(日)にわたって「2日間のイヌワシ観察会」を開催しました。昨年まで秋の開催としてきたイヌワシ観察会ですが、今年は夏の開催とさせていただきます。

1日目の秋田市大森山動物園での観察会では、テレビ局の取材もありました。小松守園長のお話を聞き、特別に動物病院の中を見学させていただいたり、イヌワシの腕のせ展示や体重当てクイズなどで普段体験できない盛りだくさんの内容となりました。

2日目の鳥海山南麓での野生のイヌワシ観察会は、講師に鳥海山ワシタカ研究会より佐藤淳志さんを招き開催しました。鳥海山のイヌワシ保護の舞台となった現地で、当時のお話について解説をしていただきました。標高1000m近い場所といえども夏の開催ということで暑かったですが、目的のイヌワシが出現すると、暑さを忘れて双眼鏡でイヌワシの姿を追っていました。今年はイヌワシの出現時間も長かったこともあり、参加者全員がイヌワシを観察することができました。2日間通して飼育と野生の両面からイヌワシの生態を知ることができた内容の濃い観察会となりました。動物園の皆さん、佐藤さん、参加してくれた皆さんありがとうございました。



小松園長によるお話



TV取材と動物病院見学



講師のお話を聞く



出現したイヌワシ



腕に乗って登場したイヌワシの「フウ」

○「豊かな海づくりフェスタ in 酒田」に出展しました！

9月10日(土)・11日(日)の2日間にわたって酒田みなと市場西側で開催された「豊かな海づくりフェスタin 酒田」へブース出展しました。このイベントは山形県の庄内地方で開催された、「第36回全国豊かな海づくり大会」に関連行事として開催されたものです。

当館の展示は水辺の猛禽類の代表である「ミサゴ」の特徴を理解してもらうためのエサ取りゲームのほか、イヌワシの生態を紹介しました。また会場も含めた最上川河口周辺は国指定の鳥獣保護区となっており、長船自然保護専門員が、鳥獣保護区の調査の中で出会った動物たちの姿を紹介し、水辺の豊かさを知ってもらうことができました。また酒田市の取り組みとして「COOL CHOICE(賢い選択)」に賛同してくれた人に、会場限定のワッシーくんバッジを配布しました。

ステージでは天皇・皇后両陛下がご出席された記念式典の様子が生中継されたほか、様々な楽しいイベントが催されました。会場内では稚魚の放流行事も行われました。県民で豊かな庄内浜の恵みを実感し、次世代にこの豊かな環境をつないでいこうという意識ができた大会となりました。来場してくれた皆さん、ありがとうございました。



ミサゴのエサ採り(上)とイヌワシ視力体験(下)

○猛禽類観察会「秋の渡りを見よう！」開催しました！

9月25日(日)、毎年恒例の渡る猛禽類の秋の渡りを観察しました。講師は猛禽類保護ネットワークの伊藤智樹さんです。今年は台風の発生が多く、当日の天候が心配されましたが、風が強く体感温度が低かったものの天候に恵まれ、ノスリの122羽とツミの51羽などに加え、ハヤブサ類の渡りを多く観察することができました。講師の伊藤さんからは見分けのポイントを事前に解説していただき、直後にカウント体験ゲームも開催しました。初めて参加した家族もあり、後日とても勉強になったと感想を送ってくれました。講師の伊藤さん参加してくれた皆さんありがとうございました。



この日見られた鳥ノスリ(122)、ツミ(51)、ハチクマ(7)、サシバ(2)、ハヤブサ(7)、ハイタカ(3)、チゴハヤブサ(2)、オオタカ、チュウヒ、トビ、ツバメ、アマツバメ、ハリオアマツバメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ムクドリ、キジバト、アオバト、シジュウカラ、ウグイス、カワラヒワ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、ホシガラス、計26種(うち猛禽類10種)()内はカウント数



観察会の様子(上)とチゴハヤブサ(下)

○特別企画展示「豊かな海の故郷潤う水の郷」開催しました！

8月20日(土)～10月10日(月)までの期間、「第36回全国豊かな海づくり大会」の記念イベントとして「豊かな海の故郷潤う水の郷」と題して、鳥海山から庄内海岸までの豊かな水の恵みを題材にした企画展示を開催しました。エントランスには酒田市在住の写真家・斎藤政広さんの鳥海山のブナ林の写真を展示しました。大型スクリーンに映し出した森の中へ入っていくと、館内には庄内海岸いきもの調査グループによる生きた淡水魚類や、庄内昆虫同好会による水棲昆虫、チョウの標本を展示するなど、猛禽類保護センターでは初めての試みとなりました。

幼いころに昆虫少年だったお父さんたちが懐かしく見学していたり、普段この地域でもなかなか見ることができない魚類や、水棲昆虫を熱心に見学してくれました。

イヌワシなど猛禽類たちが生息できるのは、生き物たちや環境が絶妙なバランスで存在しているからであり、また豊かな海であることも、こうしたブナ林や生物たちのおかげです。この企画展を通してそうした生き物たちのつながりを実感していただけたとすれば幸いです。来場してくれた皆さん、展示協力してくださいました皆さん、ありがとうございました。



展示エントランス(上)とゲンゴロウ(下)

イベント情報コーナー

○猛禽類観察会「葦原の猛禽チュウヒ」

葦原に生息し、現在急速にその数を減らす猛禽類チュウヒ。観察を通し、生態と生息環境保全の重要性を学びます。

期 日 平成28年11月13日（日）
 時 間 14：00～17：00
 観察場所 参加者にお知らせします。
 定 員 先着15名
 参加費 一人300円（保険・資料代）
 講 師 長船裕紀（環境省自然保護専門員）
 持ち物 防寒着、双眼鏡（貸出可）、マイカップ、懐中電灯、筆記用具
 募集期間 10月16日（日）～11月10日（木）午後5時まで
 お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681（鳥海イヌワシみらい館）
 E-mail: moukin@raptor-c.com



○「やまがた環境展2016」（出張展示）

山形ビッグウィングで開催されるブース展示に出展します。ステージイベント、出展ブース多数！来場する価値のある2日間です。マイバッグ・マイ箸持参でご来場ください。

期 日 平成28年11月19日（土）・20日（日）
 時 間 19日（土）10：00～17：00
 20日（日）10：00～16：30
 場 所 山形市国際交流プラザ（山形ビッグウィング）
 入 場 無料
 持ち物 マイ箸、マイバッグ
 お問合せ
 山形県環境エネルギー部 循環型社会推進課
 TEL023-630-2322



○猛禽類観察会「最上川河口鳥獣保護区」

毎年水鳥の楽園となる最上川河口鳥獣保護区ですが、周辺にはそれを虎視眈々と狙うハンターたちが！どんな猛禽類や水鳥たちが利用しているのかを観察します。

期 日 平成28年12月11日（日）
 時 間 8：30～12：00
 場 所 参加者にお知らせします。
 定 員 先着15名
 参加費 一人300円（保険代・資料代）
 持ち物 防寒着、双眼鏡（貸出可）、マイカップ、筆記用具
 募集期間 11月16日（土）～12月8日（木）午後5時まで
 お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681（鳥海イヌワシみらい館）
 E-mail: moukin@raptor-c.com



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

まずはジオパークおめでとうございます！そして海づくり大会大成功！いよいよ来年は酉年！鳥だけに当館も主役級の扱いに！（本）

事務局

当館のマスコットキャラクターとして活躍中の着ぐるみ「ワッシーくん」只今リニューアル中！次号に載るかも???（村）

自然保護専門員

イヌワシの繁殖シーズンがやってきましたね。せっせと巣材を運んでいることでしょう。（長）

鳥海南麓自然保護官

気づいたら年末・・・アツという間ですね。（鎌）

編集後記&施設情報

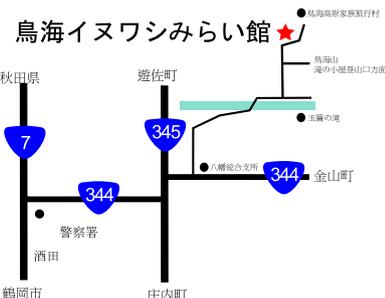
鳥海イヌワシみらい館 10月～12月の開館情報

開館時間・・・9：00～16：30
 入館料・・・無料
 休館日・・・12月より火曜日休館・年末年始

臨時休館日はホームページにてお知らせします。
 ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

猛禽類保護センター

〒999-8207
 山形県酒田市草津湯ノ台71-1
 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683
 E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
 Vol.20 秋号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
 （事務局 鳥海イヌワシみらい館内）